



国立がん研究センター

認定がん専門相談員 新要件 説明会

～申請・更新をわかりやすく、有意義に～

2025年3月7日（金） 17:00-17:30

本日の内容

- 1 認定事業の変遷とこれから
- 2 認定がん専門相談員の概要
- 3 認定がん専門相談員
申請資格・認定要件の変更のポイント
- 4 質疑応答

本日の内容

- 1 認定事業の変遷とこれから
- 2 認定がん専門相談員の概要
- 3 認定がん専門相談員
申請資格・認定要件の変更のポイント
- 4 質疑応答



がん相談にかかわる社会の変遷と認定事業



課題：がん情報の不足感
 ▼
 対策：正確な情報に基づく支援を行うため、拠点病院にがん相談支援センターが設置

課題
 ・ 基礎3修了後、知識の更新機会がない
 ・ 都道府県独自の認定病院・地域統括等、がん相談窓口の乱立

対策
質が担保されている相談員・相談支援センターを分かるようにする必要がある
 ⇒ 認定事業開始へ

課題
 ・ 社会の変化に伴い、がん専門相談員が、**情報支援**を行う重要性が増す
 ・ 認定はしているものの「**正確な情報に基づく支援**」が十分行われているか懸念あり
 ▼
 対策：2021年 認定相談員/認定センター
 ・ **事業目的を募集要項上で再定義「情報支援ができる相談員・相談支援センターの育成」とした**

参考：がん対策の変遷

2005年8月 がん対策推進アクションプラン	2011年 地域統括相談支援センターの設置	2015年12月 がん対策加速化プラン	
2006年2月 拠点病院整備指針改訂 がん相談支援センターの設置			2022年8月 拠点病院整備指針改訂 障がい者外国人対応・治療開始までに一度は相談支援センター
2007年6月 第1期基本計画策定	2012年6月 第2期基本計画策定	2018年3月 第3期基本計画策定	2023年3月 第4期基本計画策定
2008年3月 拠点病院整備指針改訂 HTLV1アスベスト追加・患者団体との連携協力体制	2014年1月 拠点病院整備指針改訂 就労支援追加・都道府県継続研修の実施	2018年7月 拠点病院整備指針改訂 ゲノム、希少がん、AYA、妊孕性温存などの相談が追加	

参考：NCC主催相談員研修・情報社会・医療コミュニケーションの変遷

2007年 基礎研修(1)(2)開始 2008年 基礎研修(3)開始	2011年 指導者研修開始	2015年 基礎(1)(2) e-learning化 2017年 スキルアップ研修（情報支援）開始 2019年 指導者研修後期に情報支援研修	2020年 基礎(3)オンライン化
がん情報サービス開設、診療ガイドラインの登場 2008年 iPhone登場（1人1台スマホ保有）	⇒ 情報の不足から情報の氾濫へ ⇒	2015年 ネットの高速化（スマホ利用拡大）	診療ガイドライン数の増加 2022年 ChatGPT登場（生成AIの普及）
インフォームド・コンセント（説明と同意）	⇒ インフォームド・デシジョン（説明を受けた上での選択・意思決定）	シェアード・デシジョン・メイキング（SDM/協働意思決定）	



認定事業の10年とこれから -認定事業は10周年を迎えました-

2025~

・**情報支援**ができる相談員/センターのさらなる育成
・ネットワークの強化、コミュニティ形成

2015~ : 創設期

2020~ : 構築期

共通

- 2015~2016年
事業目的は、「**相談員の質の向上を目指し、国民が安心して活用できる全国のがん相談支援提供体制の充実を図る**」として、募集を開始
- 2019年
整備指針改定を受け認定要件・申請書類等調整

- 2021年
事業目的を募集要項上で再定義「**情報支援ができる相談員・相談支援センターの育成**」とした
まずは認定センターを中心に「**正確な情報に基づく支援**」の力量向上、顔の見える関係構築を開始
- 2023年
整備指針改定を受け認定要件・申請書類等調整
- 2024年
研修・認定事業説明会（行政・病院向け）を実施

認定相談員

- 2015年 募集開始
- 2018年
必要単位として、**相談対応モニタリング実績（V群）を導入**
※2021年から必須要件化
- 2019年
更新申請時要件として、**情報支援研修（II群）を導入**
※2022年から必須要件化

- 2024年
 - ・ **Lineオープンチャット開始**
 - ・ **がん情報サービスサポートセンター見学受入開始**
 - ・ **希少がんMeet the Expert等の勉強会の情報提供開始**

認定センター

- 2016年 募集開始
- 2019年
 - ・ ML開設、ガイドラインメルマガ送付開始
 - ・ コールモニタリング（*）開始
* NCCからコールモニタリング対象施設に模擬電話相談 + 部門内モニタリングの実施とモニタリング記録提出
 - ・ 認定センターワークショップ開催
（申請に向けての説明会 + 認定センター間の交流）

- 2021年
「認定3年目以降に**コールモニタリング実施**」
⇒「**認定1年目から奇数年（1.3.5…年目）に実施**」へ変更
- 2022年
 - **外部レビュー（NCC他）による部門内モニタリングオンライン参加**開始
 - **認定サロン開始**
- 2023年
 - **模擬相談者役を認定施設（コールモニタリング対象外施設）にも依頼**
 - **がん情報サービスサポセン見学受入開始**
- 2024年
認定センター申請に向けての説明会（病院向け）を実施

背景：がん相談支援センターが設置された2005年当初と比べ、現在はがん医療の情報過多やSNSの普及が著しく、**がん専門相談員が、情報支援***を行う重要性が増している

* 情報支援とは、信頼できる確かな情報を用い、相談者のヘルスリテラシーに合わせて提供し、相談者主体の意思決定ができるよう支援すること。

がん専門相談員は、相談員に求められる基本姿勢と役割に加え、

- ・ **信頼できる情報を見極める力**
- ・ **情報に基づき、患者・家族の主体的な意思決定や行動を支援する力が一層求められている**

➤ 認定がん専門相談員



整備指針の指定要件とされる**定期的な知識の更新、研修の受講**、がん相談の**質の向上**に向けた取り組みを確実に実施しているがん専門相談員を認定。

さらに**相談者主体の意思決定ができるよう、「情報支援」がすべての「認定がん専門相談員」によって行われることを目指す。**

➤ 認定がん相談支援センター

整備指針の指定要件等**がん相談の質の向上**につながる取り組みを**組織として**確実に実施しているがん相談支援センターを認定。

さらに**相談者主体の意思決定ができるよう、「情報支援」が「認定がん相談支援センター」内のすべての相談員によって行われることを目指す。**



認定事業は、全国のがん相談の**質の向上**や**情報支援を行う姿勢**を牽引し、**がんになった患者家族が安心・信頼して相談できる人材育成と相談支援体制の充実を目指す。**

注) 認定制度は、国立がん研究センターが独自に行っている事業です。診療報酬化や整備指針上での指定要件化の予定は、現時点ではありません。

本日の内容

- 1 認定事業の変遷とこれから
- 2 **認定がん専門相談員の概要**
- 3 認定がん専門相談員
申請資格・認定要件の変更のポイント
- 4 質疑応答

1. 認定がん専門相談員について

対象	<ul style="list-style-type: none"> ● 相談援助を主たる業務とする医療・福祉・心理の資格を有している者等 ● 所属施設長からの推薦を得られること（拠点病院以外でも申請可） 等
認定に必要な要件など	<ul style="list-style-type: none"> ● E-ラーニングの受講（全32講義、3年毎に更新） ● 【新規申請】基礎研修3もしくはCCTNP基礎演習/【更新申請】情報支援研修（NCC主催2日間）の受講 ● 研修や学会に参加する ● 自分の相談を振り返る相談対応モニタリングを実施
認定人数	426名（2025年3月時点）
認定期間	3年間
費用	申請料5,000円 登録料15,000円（3年間で）

- 整備指針で求められている相談支援センターが担う役割に関する基礎知識の獲得する
- 定期的な知識の更新をする

- 相談員に求められる基本姿勢と役割を学ぶ

- 情報支援の基礎知識、姿勢を学ぶ

- 定期的な知識の更新・譲歩収集を行う
- 連携協力体制の構築

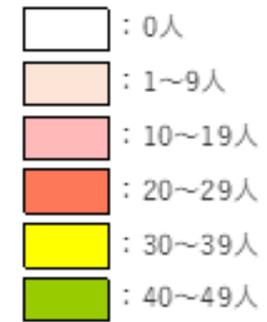
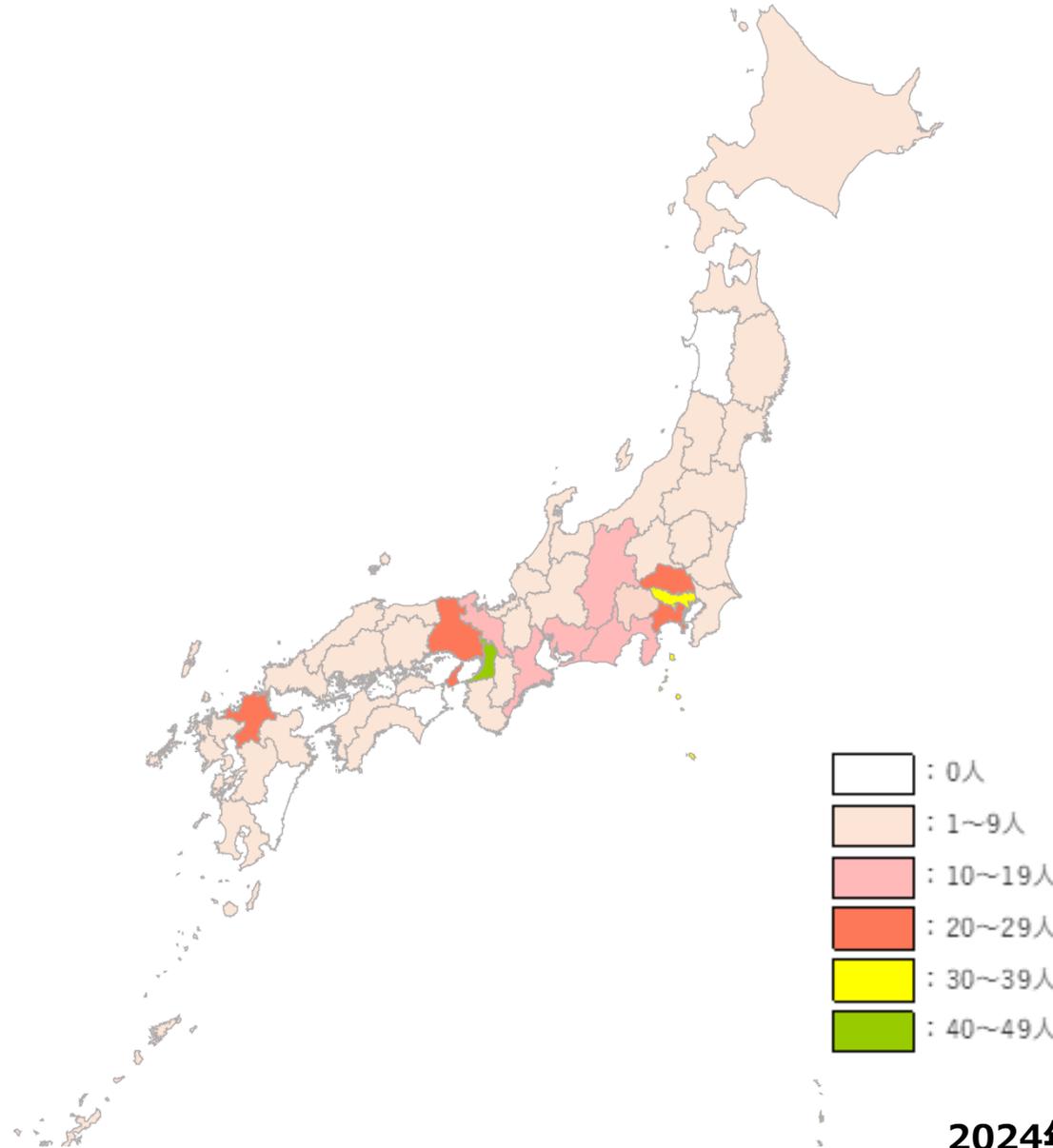
- 相談対応の質向上、改善に取り組む
- 相談環境の整備に取り組む



相談支援の質の向上や情報支援を行う取り組みが確実に行われていることを認定

認定がん専門相談員 都道府県別認定者数

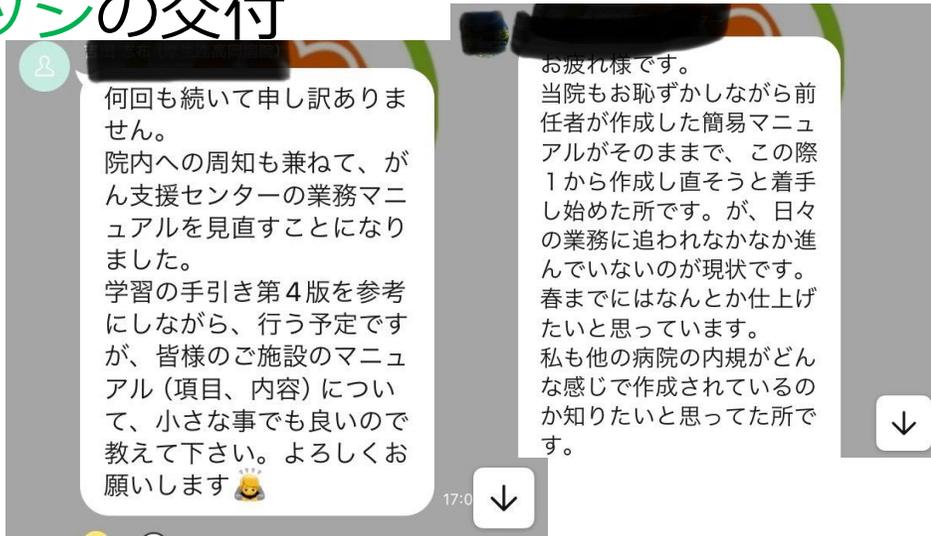
都道府県	人数
北海道	7
青森県	6
岩手県	3
宮城県	3
秋田県	0
山形県	4
福島県	2
茨城県	8
栃木県	7
群馬県	9
埼玉県	23
千葉県	4
東京都	31
神奈川県	26
新潟県	8
富山県	2
石川県	1
福井県	5
山梨県	3
長野県	17
岐阜県	9
静岡県	12
愛知県	16



三重県	10
滋賀県	1
京都府	15
大阪府	49
兵庫県	24
奈良県	4
和歌山県	6
鳥取県	5
島根県	4
岡山県	7
広島県	3
山口県	2
徳島県	0
香川県	6
愛媛県	7
高知県	1
福岡県	21
佐賀県	1
長崎県	1
熊本県	4
大分県	2
宮崎県	0
鹿児島県	5
沖縄県	3
合計	387

認定相談員 取得のメリット

- 基礎研修(1)(2)知識確認コースの3年間の受講権利資格
- スキルアップ研修（NCC主催 情報支援研修2日間プログラム）の優先的な受講
- がん情報サービスサポートセンター見学
- 新発売のガイドライン情報と更新ポイントの情報提供 **NEW**
- LINE オープンチャットで相談員同士の交流、情報交換の場の提供
- 希少がんMeet the Expertなど研修案内送付
- 認定相談員バッジの交付



■ 2024年9月以降にサポートセンターで購入したガイドライン等 ■
詳しくは各出版社サイトでご確認ください。

1. 産婦人科内視鏡手術ガイドライン 2024年版 第4版 (2024年9月15日発行)

<https://www.kanehara-shuppan.co.jp/books/detail.html?isbn=978430730>

▶前版との違い

- ・ 2019年版から5年ぶりの改訂
 - ・ すべての地域・施設で可能な技術を標準としているガイドラインではとした内容である点を強調
 - ・ 前版発刊後から2020年に子宮体がんに対する腹腔鏡下傍大動脈リンパ
 - ・ 参照する論文の多くに腹腔鏡手術とロボット手術が含まれること、推
- 術) と併記

個人的な「取ってよかった！認定相談員」 アンケートより

取って
よかった！



◆ 相談者から

- 「安心して相談できます」と言ってもらえる
- 「看護師さんじゃないんですね」と言われることがよくあるが、認定がん専門相談員であることで信頼してもらえる（社会福祉士）

◆ 専従になれた

- 異動がなくなった
- がん相談に専念できるようになった
- 夜勤がなくなった

◆ 自信になる！

- 自信・責任・誇りを持てる。
- 計画的にがんの研修に参加するようになった
- 講師やファシリテーターの依頼を受けるようになった

◆ 一目置かれている

- 院内外の医療者が安心して相談できると言ってくれる
- 認定相談員の役割が認知され、認定相談員を取得する仲間が増えた
- 管理者から「資格を持った人」と認知されている

◆ 情報獲得や交流の機会が増える

- 相談員同士、気軽に相談しあえる場がある
- 最新のガイドライン情報提供や研修情報を入手できる
- 講師など外部の仕事が増え、全国の相談員仲間がたくさん増えた

がん相談支援センターへの好影響 アンケートより

◆がん相談支援センターの質の向上、環境の整備の一助となる。

- 評価表を用いた相談事例の振り返りから、ガイドラインの活用やマニュアルの整備など、組織として改善策を考えていく風土づくりができた
- がん相談員やがん相談支援センターを院内スタッフに認知してもらえ、患者さんを案内してもらえるようになった。

◆予算がついた

- 書籍の購入や研修・資格取得のための費用をだしてもらえるようになった
- 勤務扱いで研修に参加できるようになった

取って
よかった！



認定相談員は
自らの情報リテラシーの
向上を図ります

病院への**好影響** アンケートより

- 自信をもって多職種と対話ができ、**患者家族と医師の橋渡し**をしている
- がん関係の院内の困りごとが集まってくるので、**がん診療全体の課題を整理**できる
- 院内のがん分野の課題について病院上層部から意見を求められる

認定相談員は
病状や治療方針について医師の補足説明を行い、患者・家族
が理解することを助けます。



患者・家族と医師との関係強化や、院内外の円滑な連携を促進
します。

取って
よかった！



本日の内容

- 1 認定事業の変遷とこれから
- 2 認定がん専門相談員の概要
- 3 認定がん専門相談員
申請資格・認定要件の変更のポイント**
- 4 質疑応答

2026年度募集（2025年申請/2026年認定）における申請資格・認定要件の**変更早見表**

旧		新
<p>I 群 【新規】該当するいずれかの年度のE-ラーニング研修の修了 【更新】計3年分のEラーニング研修の修了</p>	<p>申請資格における指定研修（E-ラーニング）へ</p>	<p>【新規】【更新】ともに申請年度に開講された<u>基礎研修(1)(2)知識確認コース（テストありコース）</u>を修了していること ※認定後の受講権利は自動付与</p>
<p>II 群 【新規】基礎研修(3)の修了 【更新】情報支援研修の修了</p>	<p>申請資格における指定研修（演習）へ</p>	<p>【新規】NCC主催基礎研修3 もしくは がん相談教育ネットワーク事業（CCTNP）相談員基礎演習 【更新】情報支援研修受講（変更なし）</p>
<p>III 群 III群該当研修の受講 IV 群 その他研修・学会等の参加</p>	<p>統合して 研修・学会等への参加実績へ</p>	<p>統合して「研修・学会等の参加実績」に変更 必要単位数 5単位 ➡ 4単位 レポート提出はなし</p>
<p>V 群 相談対応モニタリング 全て認定要件</p>	<p>相談対応モニタリング実績へ 認定要件</p>	<p>必要単位数 1単位 ➡ 2単位 他者とともにモニタリングを行うことを推奨 1単位は「がん情報サービス」または「診療ガイドライン」「患者向けガイドライン」等を使用し医学情報を提供した事例で行うことが望ましい</p>

変更のポイント①

3. 申請資格 *

以下の条件すべてを満たす者を、認定申請資格を持つ者とする。

3-1.

所属長による推薦が受けられること。また、がん相談支援業務に従事していることを所属長が証明していること。

※更新申請時特例として、以下の場合、業務従事状況に関する申請資格を満たすものとする。

「認定がん専門相談員」の認定を取得した後、がん相談支援業務の現任者ではなくなったが、がん患者を支援する機会を持ち続けている場合

3-2.

申請者自身、また所属施設が、患者・家族に対し、がん対策の方針に反する治療や活動を推奨するような行為を行っていないこと。

「がん対策の方針に反する治療や活動を推奨するような行為」とは、科学的根拠が明らかではない医療（治験を含めた臨床試験、先進医療の枠組みで実施されるものは除く）の推奨等を指す。

3-3.

原則として、相談援助を主たる業務とする医療・福祉に関する資格（看護師、社会福祉士、公認心理師等の国家資格、臨床心理士等の認定資格）を有していること。

相談援助を主たる業務とする医療・福祉に関する資格を有していない場合は、相談対応場面において有資格者による助言・指導が得られる（必要に応じて、相談対応を引き継ぐ・交代することができるよう、有資格者が相談部門内に常駐している）体制にあること。

3-4.

申請年度に開講された基礎研修(1)(2)知識確認コース修了していること。

（やむを得ない事情がある場合、直近3年以内に開講された「基礎研修(1)(2)知識確認コース」修了と教育研修管理システム上での理由登録でも可）

3-5.

○新規申請の場合：

NCC主催基礎研修(3)またはがん相談教育ネットワーク事業（CCTNP）相談員基礎演習修了していること。

○更新申請の場合：

NCC主催情報支援研修2日間プログラム修了していること。

- **従来の認定要件I群，II群を申請資格として位置づけた。**

※I～V群の違いが直観的に分からないという問題を解消するため、認定要件から除外した。

- Eラーニングの受講状況（I群）は、原則として「**申請年度に開講された基礎研修12知識確認コースを修了していること**」を必須化した。

※新規と更新で申請資格や認定要件の相違点が多く、複雑で分かりにくいという声に対応した。

- **新規申請時必要な申請資格（従来のII群）として、がん相談教育ネットワーク事業（CCTNP）相談員基礎演習を認めた。**

※定員の関係で、NCC主催基礎研修3を受講できないという問題を解消するため。

変更のポイント②

4. 認定要件 *

申請資格を持つ者が、以下の条件すべてを満たすと判断された場合に「認定がん専門相談員」として認定する。

4-1. 国際がん情報サービスグループ（ICISG）が示す“Core Values”および、“がん相談の10の原則”（※1）に準じた活動を基本姿勢とし、がん患者や家族等が持つ医療や療養等の課題に関して、所属施設の協力のもと、心理的サポートと信頼関係の構築を基盤とする全人的な相談支援を行っていること。

：
(中略)
：

4-5. 認定申請に必要な教育研修を履修していること。詳細は「[6. 認定申請に必要な教育研修（詳細）](#)」を参照。

1) 研修・学会等への参加実績（4単位）

2時間以上の研修または保健医療福祉の学術集会等への参加実績があること。

参加証明書のみ提出を要する（レポートの提出は不要）。

なお、4単位中、1単位は都道府県主催のがん専門相談員を対象とした研修（旧III群）であることが望ましい。また、1単位は保健医療福祉の学術集会への参加が望ましい。

2) 相談対応モニタリング実績（2単位）

2単位中、1単位は「がん情報サービス」または「診療ガイドライン」「患者向けガイドライン」等を使用し医学情報を提供した事例で行うことが望ましい。

また、部門内モニタリング等、他者と共に相談対応のモニタリングを行うことが望ましい。

モニタリングの事例は、実際の相談事例でなく模擬相談・ロールプレイでも可。

- **従来の認定要件III群、IV群を統合し、「研修・学会等への参加実績（4単位）」として位置づけた。**

※研修機会が限られていてIII群の単位が取れないという問題を解消するため。

- V群は「**相談対応モニタリング実績（1⇒2単位）**」と増やし、他者とのモニタリングを推奨。
（1単位 = 1事例）
- **1単位は「がん情報サービス」または「診療ガイドライン」「患者向けガイドライン」等を使用し医学情報を提供した事例で行うことが望ましいとした。**

※研修受講も重要ではあるが、実践力（情報支援の力量）の向上を重視する場合、モニタリング・改善活動の比重を上げる方が良いと考えられるため。モニタリング単位数増加による負荷を考慮し、研修・学会等への参加実績は必要単位数を1単位分減らすと共に、レポート提出も不要とした。

がん対応評価表は 「がん相談対応評価表」(A4) (2023年度修正版) をご活用ください

2. 2026年度認定がん専門相談員 申請手続きについて **NEW**

募集要項および申請手順をご確認のうえ、申請してください。

募集開始：2025年11月3日（月曜日）

受付締切：2025年12月8日（月曜日）

募集要項

- 2026年度募集要項（申請区分：新規・更新共通） [第1版,2025年2月] (PDF)

申請様式

- 申請様式（申請区分：新規・更新共通） (Excel)
- 「がん相談対応評価表 (A4)」 (2023年度修正版) (Excel)

申請手順

準備でき次第掲載します。

https://www.ncc.go.jp/jp/icc/cancer-info/project/certification/nintei_in/index.html

がん相談対応評価表の取り組み方は以下を参考に行ってください

- **がん専門相談員のための学習の手引き第4版「がん相談の質の管理」** (P296-309)
- **Eラーニング「相談対応の質の評価」** 講義
- **がん相談対応の質保証 (QA) 研修**
CCTNPや各都道府県の教育担当者が主催

**A4で印刷可能！
PCで直接入力が可能！**

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
1	国立がん研究センターがん対策研究所「がん相談対応評価表」(2023年改訂) A4サイズ															
2	相談員名								相談日		年	月	日			
3	評価者名								評価日		年	月	日			
4	相談時間		分	秒	逐語録			相談の形態								
5	相談の概要															
6	相談の概要等の項目を追加															
7	事例提供者が															
8	検討したいこと															
9	評価者が感じた															
10	相談の印象：															
11																
12	I. 相談員の対応											点数	評価と根拠を明記			
13													* 逐語録の番号とともに良かった対応や代替案、改善案を具体的に挙げる			
14																
15	1)がん相談支援センター（以下、センター）の方針を遵守しているか															
16	方針を守っている=1、方針を守っていない=0、非該当の場合には/（スラッシュ）															
17	1. センター内で承認された情報を正確に提供している															
18	科学的根拠のある情報（診療ガイドライン、がん情報サービス、PDQなど）や、センター内で保有している情報（患者会、地域の社会資源など）															
19																
20	2. (ある程度まとまった) 情報を伝えるときに、免責事項および出典を伝えている															
21																
22	免責事項の例：提供する情報は医学一般的な情報であり、主治医に代わる医学的判断はできないこと、医学的判断が必要な場合には主治医に確認すること。出典の例：「〇〇年発行、〇〇学会編集、〇〇ガイドラインによると…」など															
23																

申請資格・認定要件 内容や設定の目的

申請資格・認定要件	内容・目的
指定研修（E-ラーニング）の受講 2026年度募集要項 p7	がんの基礎知識に加えて、定期的な知識の更新を行うため、がんに関する多様な講義を設けている 例）診療ガイドラインとその活用、臨床試験、高齢者とがん、AYA世代とがんがんゲノム医療、患者会・ピアサポーター、在宅医療 等
指定研修（演習）の受講 2026年度募集要項 p8 【新規】基礎研修3の受講	相談員に求められる基本姿勢と役割を理解し、相談者個々のニーズに沿った相談支援を行うために必要な知識・スキル・態度を学ぶ
【更新】情報支援研修の受講	信頼できる情報を見極める力を養うとともに、正しく情報を活用し、相談者のヘルスリテラシーに応じた情報提供のあり方や大切な視点について学ぶ研修 これまで看護職、福祉職、心理職等の専門職種が取り扱ってこなかった内容で、がん専門相談員の専門性である「情報支援」を学ぶ
研修・学会等への参加 2026年度募集要項 p9～	相談支援には多様な知識や技術が求められるため、定期的に情報をアップデートし、活用していくことが重要である 都道府県協議会や相談支援部会等が主催する相談員対象の研修や、がん専門相談員に必要とされる知識・技術の習得に寄与する学会・研修等が該当する
相談対応のモニタリング 2026年度募集要項 p11～	「がん相談対応評価表」を用いて相談対応を評価するとともに、改善策の検討を行う他者とモニタリングを行うことにより、さらなる気づきが得られ、相談対応の質の向上に効果がある

Ⅲ群の終了に伴う変更点

Ⅲ群登録・報告フォームは3月末を持って終了します

Ⅲ群登録

⇒

終了

都道府県主催の相談員研修の開催の際はぜひ積極的に広報をお願いします

Ⅲ群報告

⇒

随時報告(フォーム準備中)

全国の相談員対象研修の開催状況の把握、ならびに企画・運営者の参考資料として役立てます

2026年度募集要項 p9～

「研修・学会等の参加実績」となる研修等の条件	
内容	がん専門相談員に必要とされる知識、技術の習得に寄与する研修や学会。
研修開催日	認定申請を行う年の12月末日から遡って過去3年の間に開催された研修や学会。
実質受講時間数	前後に付随する会議や交流会、休憩時間を除いた 実質的な研修受講時間数が2時
参加証明	参加証明書類(「参加証」「受や学会。参加証明のみ提出

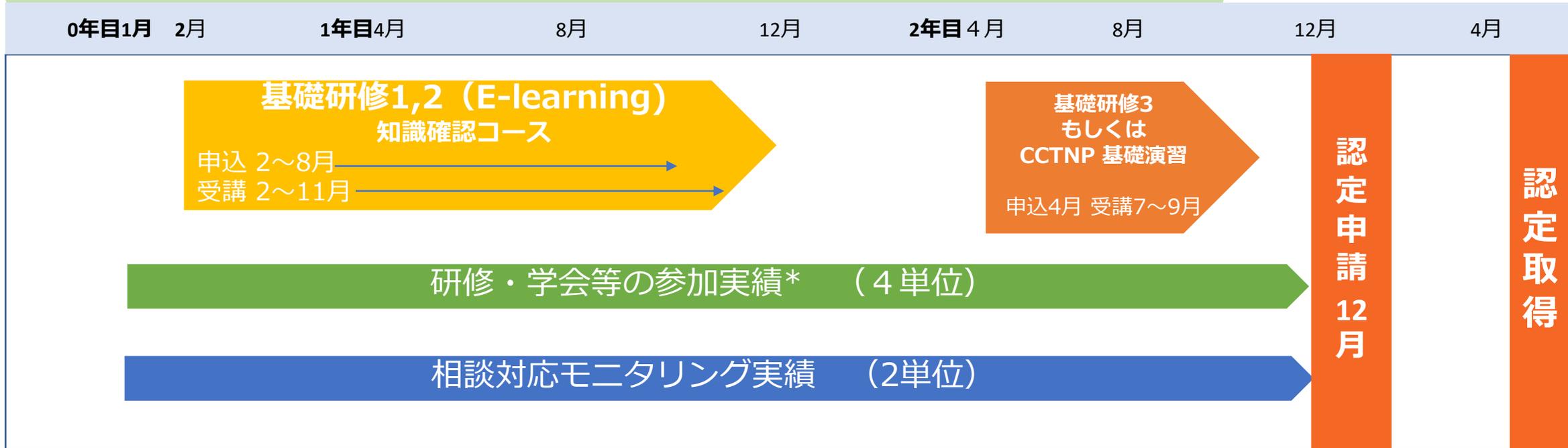
6-3.2 単位数

- 1) 認定申請に必要な単位数は、**4単位**とする。
- 2) **2時間以上の研修や学会において発行された証明書類1枚につき1単位**とする。
(研修日程が複数日にわたる場合でも、同一研修であれば1単位となる)

3) 4単位中1単位は都道府県等主催のがん相談員研修(旧Ⅲ群)、1単位は学会(旧Ⅳ群)参加が望ましい。

例①

認定がん専門相談員取得までの道のり例 2年かけて新規取得する場合 (新任・異動等で基礎研修を受けたことがない方の例)

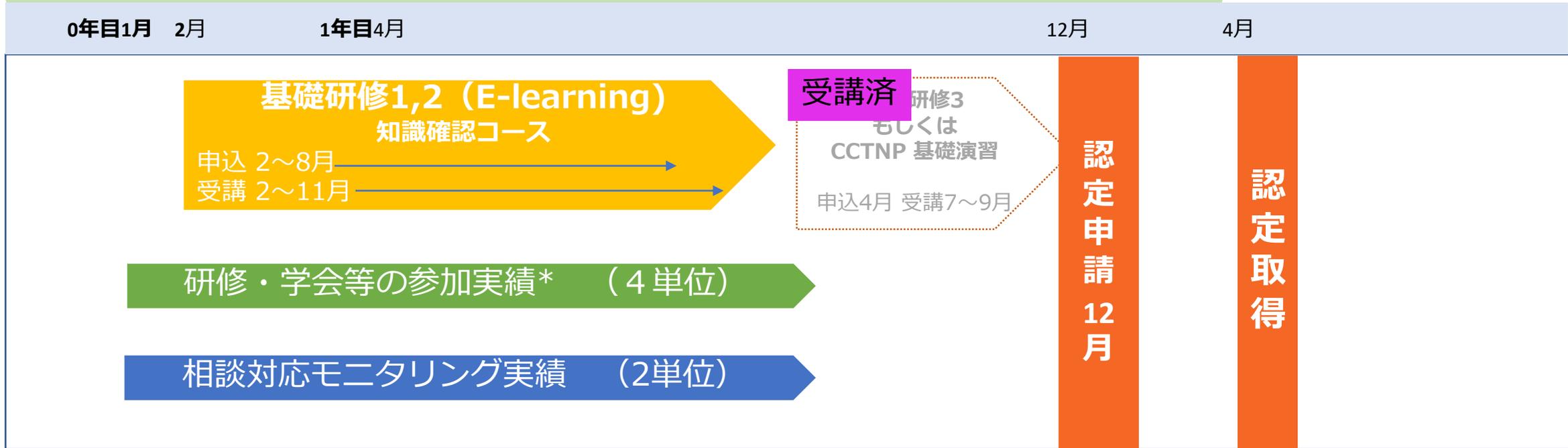


● 基礎1、2を基礎3申し込みに間に合うように受講終了すれば、最短1年でも取得可能。

*研修・学会の参加実績は申請日から過去3年さかのぼっての実績でOK

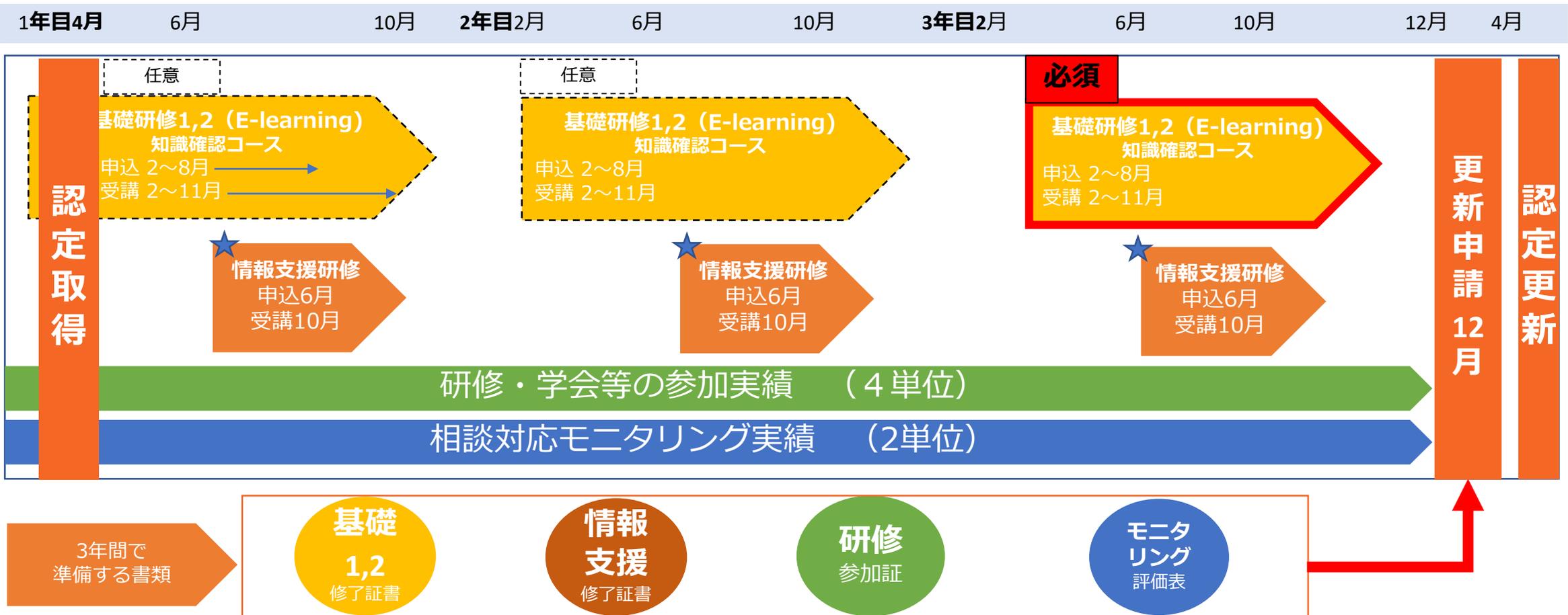
例②

認定がん専門相談員取得までの道のり例 **新規取得する場合** (基礎研修3もしくはCCTNP基礎演習受講済の方 1年で取得する例)



*研修・学会の参加実績は申請日から過去3年さかのぼっての実績でOK

認定がん専門相談員取得までの道のり例 更新する場合



★ 更新申請の場合、NCC主催の情報支援研修（2日間）を過去に1回以上受講終了していることが必要。

CCTNPの研修をご活用ください！

※ CCTNP (がん相談教育ネットワーク)

パブリックヘルスリサーチセンター／日本がん看護学会／日本医療ソーシャルワーカー協会／日本がん相談研究会／国立がん研究センターの5団体が協働し、医療者を対象にした「がん相談員研修」を通じて、がん相談の知識やスキルを提供し医療者を育成することを目的とした事業。

認定

認定相談員新規申請

相談対応モニタリング実績（2単位分）

がん相談対応評価表の使い方を学ぶには、
CCTNP相談対応の質保証（QA）研修受講を！

研修・学会等の参加実績（4単位分）

CCTNP相談対応の質保証（QA）研修も1単位分として活用可能！

NCC主催基礎研修3またはCCTNP基礎演習修了

NCC主催基礎研修12テストあり（有料）コース修了

CCTNP
Cancer Counseling
Training Network Program
がん相談教育ネットワーク事業
のご案内

私たちが目指すこと
本事業は、がん相談に従事する相談員やがん診療に携わる医療従事者など多くの皆さまに、がん相談研修の機会を提供することで、がん医療全体の質の向上に貢献することを旨としています。

協働団体	事業運営資金
<ul style="list-style-type: none">パブリックヘルスリサーチセンター日本がん看護学会日本医療ソーシャルワーカー協会日本がん相談研究会国立がん研究センター	『がん患者支援の推進に対する医療者への教育プロジェクト』 日本看護学会/フナイザー 公報型 医学教育プロジェクトの助成 (2023年1月～2025年12月)

CCTNPは、認定がん専門相談員の取得を応援しています

国立がん研究センター（以下、NCC）は「認定がん専門相談員」認定事業を行っています。これは、相談支援の基本姿勢を守り、がん相談に必要な知識や技術を更新するなど、学びを継続し、自己の相談対応も振り返ることのできる相談員を認定するものです。相談員の気持ちに寄り添いつつ、信頼できる情報をもとに意思決定を支援する相談員の育成が図られています。CCTNPおよびNCCの研修を受講いただく、認定がん専門相談員の申請が可能となります。

CCTNP研修

1年目	2-3年目	4年目以降
基礎演習	基礎演習	OK!
QA研修	QA研修	QA研修

NCC研修

1年目	2-3年目	4年目以降
基礎1・2	基礎1・2	基礎1・2
基礎3	基礎3	指導員
		資格支援

認定がん専門相談員への道

基礎1・2 → 基礎3 → 基礎演習
※テストありコース
研修・学会参加 → モニタリング2回
※QA研修も可 ※QA研修で基礎を学ぼう！

認定がん相談支援センターを目指しませんか？

対象	<ul style="list-style-type: none">● 厚生労働大臣による指定を受けたがん診療連携拠点病院等、それ以外の医療機関や福祉関連の法人等● がんの相談対応を週に20時間以上行っていること。● 「国立がん研究センター認定がん専門相談員」を2名以上配置していること● 「相談対応の質保証に関する研修」を受講した相談員を原則2名配置していること。● 都道府県協議会の部会メンバーの一員であること 等
認定に必要な取り組み	<ul style="list-style-type: none">● 認定がん専門相談員2名配置● 相談の質保証（QA）研修受講者2名配置● 相談で使用する情報源リストの作成と定期的な更新● 定期的な相談対応評価や勉強会・事例検討会の開催● 相談対応のマニュアルの作成● 「秘匿性」「中立性」等に関する公示
認定施設数	31施設（2025年1月時点）
認定期間	4年
費用	申請料5,000円 登録料95,000円（4年間で）
URL	https://www.ncc.go.jp/jp/icc/cancer-info/project/certification/nintei_c/index.html

・情報支援ができる環境を確実に整えている。
・相談の質を担保する取り組みを確実にしている

相談支援の質の向上や
情報支援を行う取り組みが
組織として行われている
ことを認定

認定センター 取得のメリット

- コールモニタリング（部門内モニタリングへ相互参加）
- 認定サロン（認定施設同士のピアサポートと情報交換、相互の活性化、改善活動の強化）
- スキルアップ研修（NCC主催 情報支援研修2日間プログラム）の優先的な受講
- がん情報サービスサポートセンター見学
- 新発売のガイドライン情報と更新ポイントの情報提供
- 活動報告に対するフィードバック



認定サロン

2. 提出書類に対するコメント
 がん相談支援センターの案内パンフレットは秀逸だと思いました。わかりやすいデザインで、掲載内容がちょうどよい量で、診断されて間もない方に読んでもらえそうな冊子です。病院の広報誌もくなるようなデザインと内容だと思いました。
 マニュアルについて、具体的な動きが記載されており、相談員の仕事内容が想像できました。大変参考になり、こうした方針がしっかりとあることは相談員にとって心強いと思いました。
 部門内モニタリングの取り組み状況については、現実的な取り組みができそうなことが挙がって改善ができることも大切だと思いますのでとても良いなと思いました。

2. 各提出書類に対するコメント
 さらなる質の維持・向上のために参考になさってください。

資料	コメント内容
一般向け公開資料 (HP、パンフレット等)	HPは相談できる内容がわかりやすく記載されていると思います。 パンフレットも、目を引くような温かみのあるデザインで、手に取ってもらいやすそうです。サポートグループやサロンなど具体的な内容が入っていることで、がん相談支援センターに相談がなくても関心を寄せてもらえそうと感じました。
相談部門の マニュアル	必要な内容が網羅されており、とてもしっかりとしたマニュアルだと思いました。1日の流れ、相談の記録や管理方法、がん相談支援センター内では対応が難しい場合の繋ぐ場所などがはっきりと明記されており、相談員の対応の質が保たれる内容だと思います。また、がん相談の具体的な対応が明記されており、相談員間での対応にばらつきがなく、新しい相談員でもマニュアルに沿って対応できるのではないかと思います。
部門内モニタリングの 開催記録	良かった点や改善点を具体的に話し合われている様子がありました。 談員同士の模擬相談だったようですが、別紙を参照すると相談内容の録音を同意いただいているようなので次回は是非、生の相談事例を使用して行ってみたいとお勧めいたします。
部門内モニタリング課題取 り組み状況	地域連携の取り組みが目を見ました。素晴らしいと思います。 毎回大きな課題に取り組むのは大変だと思いますので、現実的な明日から改善できそうなことを挙げ、相談員の行動や対応を意識化するような取り組みも織り交ぜるといいかもしれません。
勉強会・事例検討会開 催記録	勉強会を頻繁に行っており、熱心に向上心をもって取り組まれていることがよくわかりました。



「取ってよかった！認定センター」 アンケートより

病院にとって…

- 他の病院との差別化、がん医療や質の高いがん相談を推進しているという病院のアピールになる。

がん相談支援センターにとって…

- 相談員の確保、予算確保を「認定要件を満たすため」という理由で病院に要求しやすくなった。
- 認定センターの要件を各相談員が共通の基準と認識しているため、がん相談支援センターの相談員全員が同じ姿勢で相談業務にあたることができる。
- 「認定センターであること」が自分たちの相談の質に自信をもたらし、対外的にも胸を張れる。
- 認定センターの要件を満たす活動は、よりよい相談環境や相談対応を模索し、改善することであり、自然とPDCAサイクルをまわしていると実感する。

相談員にとって…

- 相談環境（承認情報や内規）を整備する活動によって、自分が相談員個人として相談を受けているのではなく、組織に守られて相談を行っているという安心感を感じることができる。
- NCCから受けるフィードバックが、改善点だけではなく、良い点も評価してもらえるため、肯定感や達成感、安心感を高めてくれる。

取って
よかった！



本日の内容

- 1 認定事業の変遷とこれから
- 2 認定がん専門相談員の概要
- 3 認定がん専門相談員
申請資格・認定要件の変更のポイント
- 4 **質疑応答**

認定事業に関するお問い合わせ

<https://www.ncc.go.jp/jp/icc/cancer-info/project/certification/contact.html>

国立がん研究センター研修事務局（オスカー・ジャパン株式会社内）

募集要項など詳しい情報

<https://www.ncc.go.jp/jp/icc/cancer-info/project/certification/index.html>

国立がん研究センターがん対策研究所

> プロジェクト

> **国立がん研究センター「認定がん専門相談員」および「認定がん相談支援センター」
認定事業のご案内**